

諏訪の景気動向

2021年11月

(2021年10月末D・I調査)



塩嶺御野立公園 (岡谷市)

《2021年11月25日》

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

電話 0266-23-4567(代) FAX 0266-24-4055

諏訪地方の景気動向（2021年10月調査）

「2021年10月アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 194 社のご協力で行った 2021 年 10 月の「景気動向調査(DI調査)」は、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIが 6.2 となった。前回調査時(2021 年 7 月末、以下同)の 16.4 から、10.2 ポイント悪化したものの、3 期連続で「好転」が「悪化」を上回るプラス水準となった。前年同期比は 16.5 で前回の 33.0 から悪化した。「3 ヶ月前」と比べた製造業の業況判断DIは△2.4 で、前回の 28.1 から悪化した。一方、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIは 22.1 で、前回の△4.5 から改善した。「3 ヶ月後」の業況予想DIは、製造業が 7.1(前回 11.5)で、非製造業は△7.4(前回△1.5)と悪化し、回答全社では 2.1(前回 6.9)となった。

製造業は、半導体不足や東南アジアの感染拡大などによる供給網の混乱が長引き、需要はあるものの、原材料や部品の調達難で生産が落ち込んだ。特に大手自動車メーカー各社が、部品不足に伴う減産を打ち出したことで影響が広がった。建設業もウッドショックが続く、資材の不足と価格高騰が収益を圧迫した。一方、10 月に入って新型コロナウイルス感染者が急減し、全国的に行動制限が解除されたことで、観光業や商業では徐々に客足が戻りつつあり、製造業の落ち込みを一部補う形となった。

製造業は、「3 ヶ月前」と比べた業況は、好転した企業が前回の 38.8%から 19.8%に減少し、悪化した企業は前回の 10.7%から 22.2%へ増加し、悪化企業が好転企業を上回った。受注状況DIも前回の 32.2 から 6.4 と悪化した。それでも受注状況DIは5期連続のプラス水準となっているが、業況判断DIは4期ぶりにマイナス水準となった。また、収益性DIは、やや改善した前回の 16.5 から△9.5 へ再び悪化し、総体的に回復傾向に歯止めがかかっている。多くの企業が原材料の不足や高騰に苦慮し、燃料や電力費の上昇も利益を圧迫する要因となっている。また、経営課題として「労働力確保」を挙げる企業も多い。「3 ヶ月後」の業況予想DIは、前回の 11.5 から 7.1 とやや低下した。

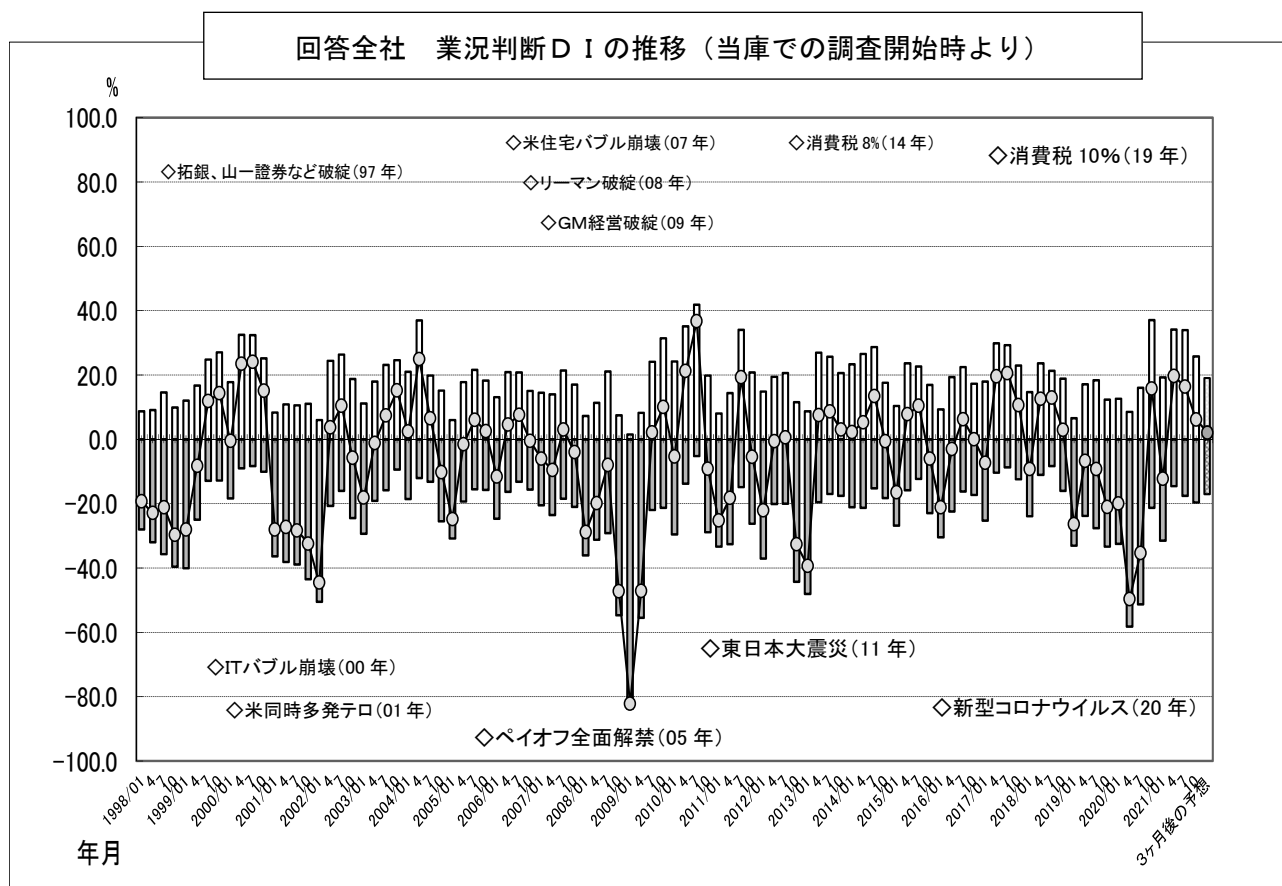
商業は、「3 ヶ月前」と比べ、来店客数DIは前回の△14.3から 21.9と改善し、業況判断DIは前回の△11.4から 15.6 へ改善した。飲食店などは、来店客数が新型コロナウイルスの感染者数や県の警戒レベルに敏感に反応する。10 月は諏訪圏域のレベルが「1」(落ち着いた状態)となり、徐々に外出する動きが出ている。一方、コロナ慣れもあって、巣ごもり需要は前年より鈍くなっている。「前年同期比」では、業況判断DIが前回の△8.6 から△9.4、売上DIは前回の 5.7 から△3.1 と悪化した。「3 ヶ月後」の予想は、来店客数DIが前回の△5.7 から 9.4 へ改善し、来店客の増加が期待されている。業況予想DIは、好転が 21.9%、悪化が 25.0%の△3.1 で、前回の△5.7 からやや改善している。

観光・サービス業は、「3 ヶ月前」と比べて、前回 30.7 だった宿泊客数DIは今回 46.1 に伸び、業況判断DIも前回の 23.1 から 53.8 へと改善した。一方、「前年同期比」では、前年 10 月が政府の観光支援事業の GoTo トラベルに東京発着の旅行が加わり、県のディスカバー信州などもあって諏訪地方に観光客が急増した時期だったことから、宿泊客数DIは前年の 38.4 から△7.7 へ、業況判断DIは 38.5 から△15.4 へ悪化している。今後の政府支援策が期待される反面、前年と同様な動きとなる「第6波」の感染再拡大も懸念されている。「3 ヶ月後」の業況

判断予想DIは前回の 23.1 から△15.4 となり、冬季に向かう季節要因とともに、度重なる新型コロナウイルス感染拡大に対する慎重な見方も表れている。

建設業は、「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは 13.0 で、前回の△10.6 から改善し、「3 ヶ月後」の業況予想DI も△8.7 で、前回の△10.5 からやや改善した。需要増の一方で、資材の高騰と不足が続いている。諏訪地方の 2021 年 9 月の新設住宅着工戸数は 56 戸で、前年同月比 21 戸減少(△27.2%)した。2021 年 4 月～9 月の累計着工戸数は 465 戸で、前年同期比 113 戸減少(△19.5%)した。2021 年 10 月の市町村からの受注工事は合計 87 件 405 百万円で、前年同月比で件数は 19 件増加したが、契約金額は 192 百万円減少(△32.2%)した。2021 年 4～10 月に地元業者が受注した国県関係の公共工事の累計は 84 件 6,148 百万円で、前年同期比で件数は 9 件減少し、契約金額は 385 百万円増加(6.7%)した。

雇用状況は、2021 年 9 月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を 0.35 ポイント上回り、前月を 0.03 ポイント上回る 1.37 倍だった。1 倍台は 90 ヶ月連続で維持している。前年同月は 5 ヶ月連続で上回った。長野県内は 1.38 倍だった。全国は 1.16 倍で、完全失業率は 2.8%となった。諏訪地方は、新規求人数(全数)が 1,743 人で前年同月比 294 人増加(20.3%)し、新規求職者数は 740 人で前年同月比 50 人減少(△6.3%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、製造業が 40.7%、卸・小売業が 35.7%増加したが、生活関連サービス・娯楽業が 51.2%減少した。1 件 10 人以上の人員整理は 0 件だった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は 12 人で、前年同月より 15 人減少し、前月より 17 人減少した。



新型コロナウイルス感染拡大の諏訪地方への影響

10月に入り、ワクチン接種率の向上などで、国内の新型コロナウイルス新規感染者数は減少傾向となり、長野県内全域の警戒レベルも「1」（落ち着いた状態）となった。「第6波」への警戒はあるものの、観光客の入込みが増加するなど、徐々に経済活動が再開されている。ただ、直接的な感染への懸念は和らいでいるものの、世界の動きの中で間接的な打撃が顕著になっている。コロナ禍から脱した中国や米国などでは経済回復に向かって需要が急増する一方、東南アジアで感染が拡大して工場の稼働が制限されたことなどで、原材料や部品の不足と高騰、原油の高騰、サプライチェーンの混乱などが起きた。諏訪地方の企業活動への影響も大きく、材料の確保は「3カ月前」に比べて、製造業が35.7%、建設業は43.5%の企業が「不足」とし、「3カ月後」もさらに増加する見通しとなっている。

産業別業況表

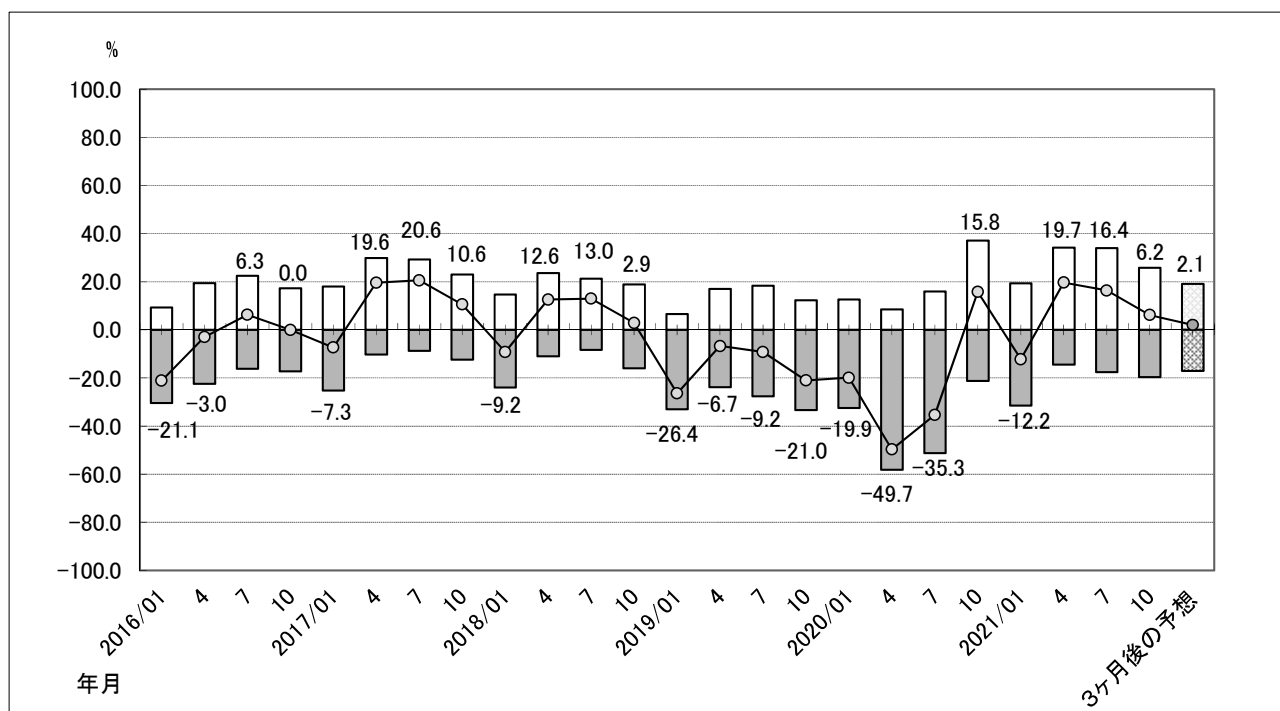
(企業数・%) 表-1

	3カ月前と比べて					前年同期と比べて					3カ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全 体	194	25.8	54.6	19.6	6.2	194	41.2	34.0	24.7	16.5	194	19.1	63.9	17.0	2.1
製造業	126	19.8	57.9	22.2	-2.4	126	51.6	29.4	19.0	32.6	126	19.8	67.5	12.7	7.1
非製造業	68	36.8	48.5	14.7	22.1	68	22.1	42.6	35.3	-13.2	68	17.6	57.4	25.0	-7.4
商 業	32	40.6	34.4	25.0	15.6	32	28.1	34.4	37.5	-9.4	32	21.9	53.1	25.0	-3.1
建設業	23	13.0	87.0	0.0	13.0	23	13.0	56.5	30.4	-17.4	23	13.0	65.2	21.7	-8.7
観光・サービス	13	69.2	15.4	15.4	53.8	13	23.1	38.5	38.5	-15.4	13	15.4	53.8	30.8	-15.4

自社業況判断DIの推移

回答全社:「3カ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



産業別景気動向

1.製造業

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べ△2.4で、前回の28.1から悪化した。「前年同期比」も32.6で、前回の54.6から悪化し、「3ヵ月後」の予想も7.1で、前回の11.5から悪化している。

設備投資DIは、「3ヵ月前」に比べ15.0で前回の17.3からやや悪化した、「前年同期比」は前回の21.5から23.8へやや改善した。「3ヵ月後」の予想DIは11.1で、前回の11.6とほぼ同水準となっている。

収益性DIは、「3ヵ月前比」で△9.5と前回の16.5から26.0ポイント悪化した。「前年同期比」は前回の33.9から17.5へ16.4ポイント悪化した。「3ヵ月後」の予想も△7.9で、前回の4.2から悪化した。

業種別(主要5業種)の業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて、「一般機械」が△7.4(前回37.9)、「金属製品」は△9.1(同19.3)、「輸送用機械」△53.8(同23.1)、「精密機械」△8.3(同7.7)と悪化した。「電気機械」も32.0(同52.3)でプラス水準ながら悪化した。

「前年同期比」では、「電気機械」は80.0(前回76.2)と改善したが、「金属製品」が30.3(同58.0)、「一般機械」は26.0(同51.8)、「精密機械」は16.7(同61.5)、「輸送用機械」は△7.7(同53.8)と悪化した。

「3ヵ月後」の予想DIは、「電気機械」は16.0(同0.0)、「輸送用機械」は38.5(同0.0)で改善したが、「金属製品」は0.0(前回19.4)、「精密機械」は0.0(同7.7)、「一般機械」は3.7(同24.1)と悪化した。

2021年上半期は大手製造業の業績がコロナ前に近づき、諏訪地方でも自動車関連などを中心とした好調な受注状況が見られた。しかし、コロナ禍からの回復に伴う世界的な需要の高まりで、多方面に需要がある半導体が不足した。これに加え、各種部品の供給拠点でもある東南アジアでの感染者急増でサプライチェーンが混乱し、原材料価格の高騰と品不足が顕在化し、回復に歯止めがかかった。特に自動車メーカー各社が行った減産は、諏訪地方の企業にも影響がおよび、「輸送用機械」は大幅に悪化した。ただ、足元では回復の動きもあり、先行きに期待がかかっている。

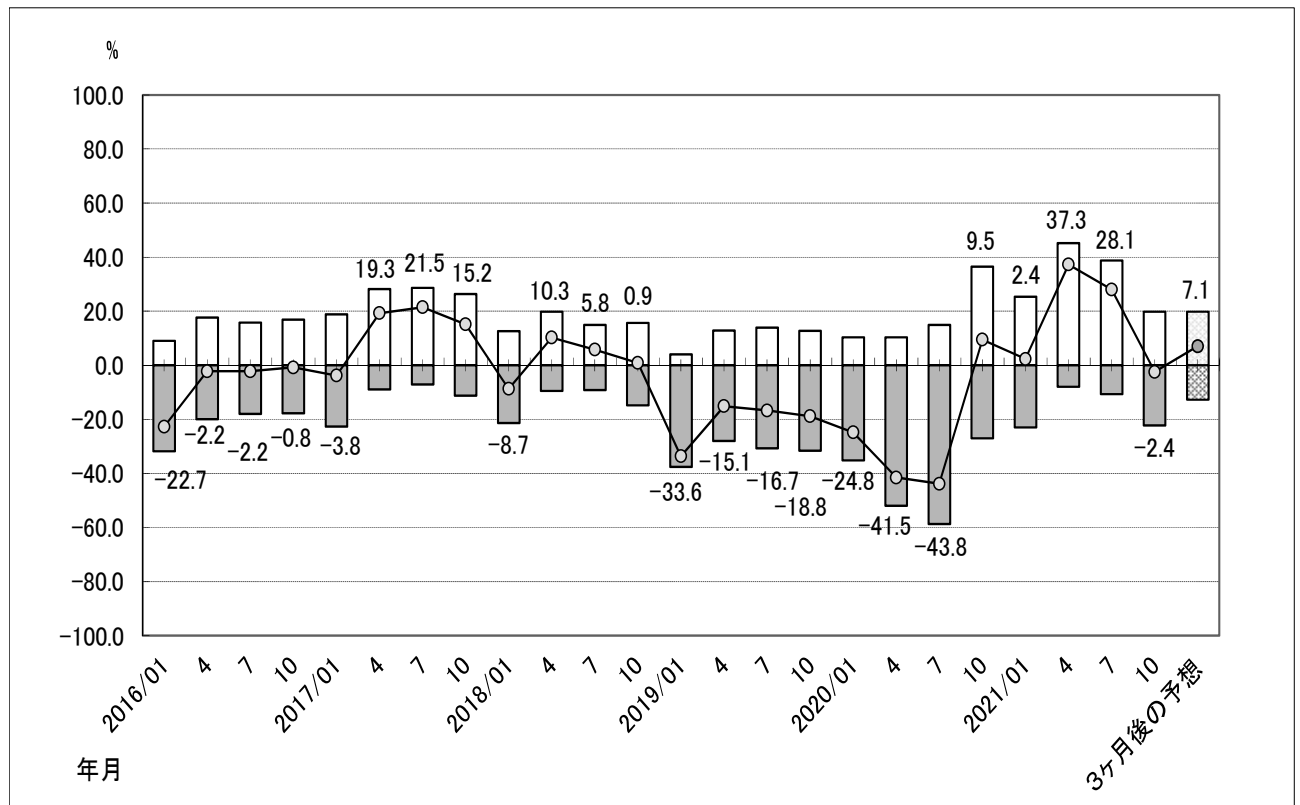
製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業	好転	横這	悪化	DI	回答 企業	好転	横這	悪化	DI	回答 企業	好転	横這	悪 化	DI
製造業		126	19.8	57.9	22.2	-2.4	126	51.6	29.4	19.0	32.6	126	19.8	67.5	12.7	7.1
規 模	1～29人	61	23.0	57.4	19.7	3.3	61	45.9	34.4	19.7	26.2	61	16.4	70.5	13.1	3.3
	30～99人	47	14.9	57.4	27.7	-12.8	47	55.3	23.4	21.3	34.0	47	19.1	70.2	10.6	8.5
	100人～	18	22.2	61.1	16.7	5.5	18	61.1	27.8	11.1	50.0	18	33.3	50.0	16.7	16.6
中 分 類	金属製品 製造業	33	12.1	66.7	21.2	-9.1	33	45.5	39.4	15.2	30.3	33	15.2	69.7	15.2	0.0
	一般機械 器具製造業	27	14.8	63.0	22.2	-7.4	27	51.9	22.2	25.9	26.0	27	14.8	74.1	11.1	3.7
	電気機械 器具製造業	25	40.0	52.0	8.0	32.0	25	84.0	12.0	4.0	80.0	25	20.0	76.0	4.0	16.0
	輸送用機械 器具製造業	13	0.0	46.2	53.8	-53.8	13	30.8	30.8	38.5	-7.7	13	46.2	46.2	7.7	38.5
	精密機械 器具製造業	12	16.7	58.3	25.0	-8.3	12	50.0	16.7	33.3	16.7	12	25.0	50.0	25.0	0.0

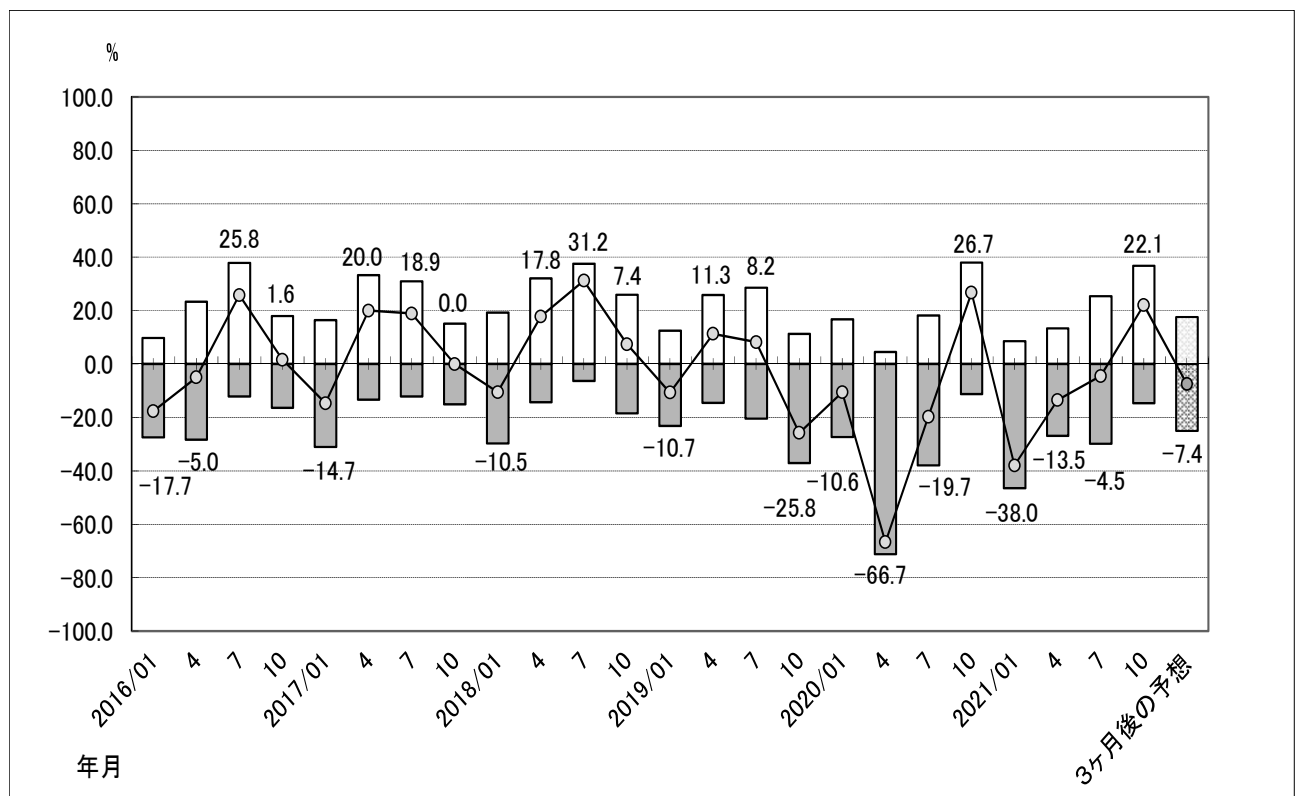
●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べ△9.1で、前回調査時の19.3から悪化した。「前年同期比」は30.3で前回の58.0から悪化し、「3ヵ月後」の予想も0.0で前回の19.4から悪化した。自動車関連は、大手メーカーの生産調整や生産計画の変動に左右される状況が続いている。一方で、再開時に一気に動き出すと対応が難しいため、減産中も再開時を見据えた在庫を抱える企業もある。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて△7.4で、前回の37.9から悪化し、「前年同期比」も26.0で、前回の51.8から悪化した。「3ヵ月後」の予想も3.7で、前回の24.1から悪化した。専用機や工作機械は回復基調だが、部品や材料が入手できず、納期が遅れる状況が続いている。製造業は人手不足が深刻で、省力化機械には需要が多い。特に遠隔対応の映像処理装置や設備需要の増加にかかわる検査機械関連は、さらに増加する見込み。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて32.0で、前回の52.3から悪化した。が、「前年同期比」は80.0で前回の76.2から改善した。「3ヵ月後」の予想も16.0で前回の0.0から改善した。電子部品は電気自動車(EV)や高速通信規格「5G」向けの需要を取り込み、好調な企業が多い。ただ、世界的なサプライチェーンの混乱を受け、顧客メーカーが行ってきた在庫の積み上げには、一服感が出ている。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて△53.8で、前回の23.1から大幅に悪化した。「前年同期比」も△7.7で、前回の53.8から大幅悪化した。が、「3ヵ月後」の予想は38.5で、前回の0.0から改善した。自動車部品関連は、東南アジアの感染拡大による部品の高騰や供給の遅れ、世界的な半導体不足などで、各メーカーが減産した影響が大きい。ただ、感染は足元では落ち着きつつあり、各社は増産に転じる計画を示している。船外機は、好調な受注が続くが、部材不足もある。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて△8.3で、前回の7.7から悪化した。「前年同期比」も16.7で前回の61.5から悪化した。「3ヵ月後」の予想は0.0で前回の7.7から悪化した。カメラは海外向けで好調な高級機種がある一方で、年末年始商戦向けは部品供給が間に合わず遅れている。通信機器や半導体検査装置向けの光ファイバーコネクタの受注は、増加傾向が続く。計量器は吸入器向けが順調。

②規模別業況

業況判断DIは、「3ヵ月前」と比べて「1～29人」規模は前回の20.3から3.3へ悪化し、「30～99人」規模は前回の35.8から△12.8へ大幅に悪化した。「100人以上」規模も前回の40.0から5.5へ悪化した。「前

年同期比」は「1～29 人」規模が前回の 34.4 から 26.2 へ悪化し、「30～99 人」規模は前回の 71.4 から 34.0 へ悪化した。「100 人以上」規模も前回の 93.3 から 50.0 へ悪化した。「3 ヶ月後」の予想は、「1～29 人」規模が前回の 7.9 から 3.3 へやや悪化し、「30～99 人」規模は前回の 14.3 から 8.5 へ悪化した。「100 人以上」規模は前回の 20.0 から 16.6 へ悪化した。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3 ヶ月前」と比べた受注状況DIは「増加」企業 28.6%、「減少」企業 22.2%で 6.4 と、前回調査時の 32.2 から悪化した。「前年同期比」も 41.2 で前回の 57.1 から悪化した。「3 ヶ月後」の予想も前回の 14.1 から 8.7 へ悪化した。

規模別の受注状況DIは「3 ヶ月前」と比べて、「1～29 人企業」は 6.5 で前回の 26.6 から悪化し、「30～99 人企業」も 2.1 で前回の 31.0 から悪化した。「100 人以上企業」は 16.6 で前回の 60.0 から悪化した。「前年同期比」は、「1～29 人企業」が 36.1 で前回の 42.2 から悪化し、「30～99 人企業」も 44.7 で前回の 64.3 から悪化した。「100 人以上企業」は 50.0 で前回の 100 から悪化した。「3 ヶ月後」の予想は「1～29 人企業」が 14.8 で前回の 14.1 とほぼ同様に、「30～99 人企業」は△2.1 で前回の 14.3 から大幅悪化した、「100 人以上企業」は 16.6 で前回の 13.3 から改善した。

業種別(主要 5 業種)の「3 ヶ月前比」は、「精密機械」が前回の 15.4 から 16.6 へ改善したが、「金属製品」が 29.0 から 0.0、「輸送用機械」が 23.1 から△53.8、「電気機械」は 61.9 から 36.0、「一般機械」は 44.9 から 7.4 へ悪化した。「前年同期比」では、「電気機械」は前回の 76.2 から 84.0 へ改善したが、「輸送用機械」は 53.8 から△23.1、「金属製品」が 70.9 から 42.4、「一般機械」は 58.7 から 48.2、「精密機械」は 46.1 から 41.7 へ悪化した。「3 ヶ月後」の予想は、「電気機械」が前回の 9.5 から 24.0、「輸送用機械」は 0.0 から 46.1 へ改善し、「金属製品」が 25.8 から 12.1、「精密機械」は 15.4 から△25.0、「一般機械」は 17.2 から△3.7 へ悪化した。

業種別・規模別受注状況表

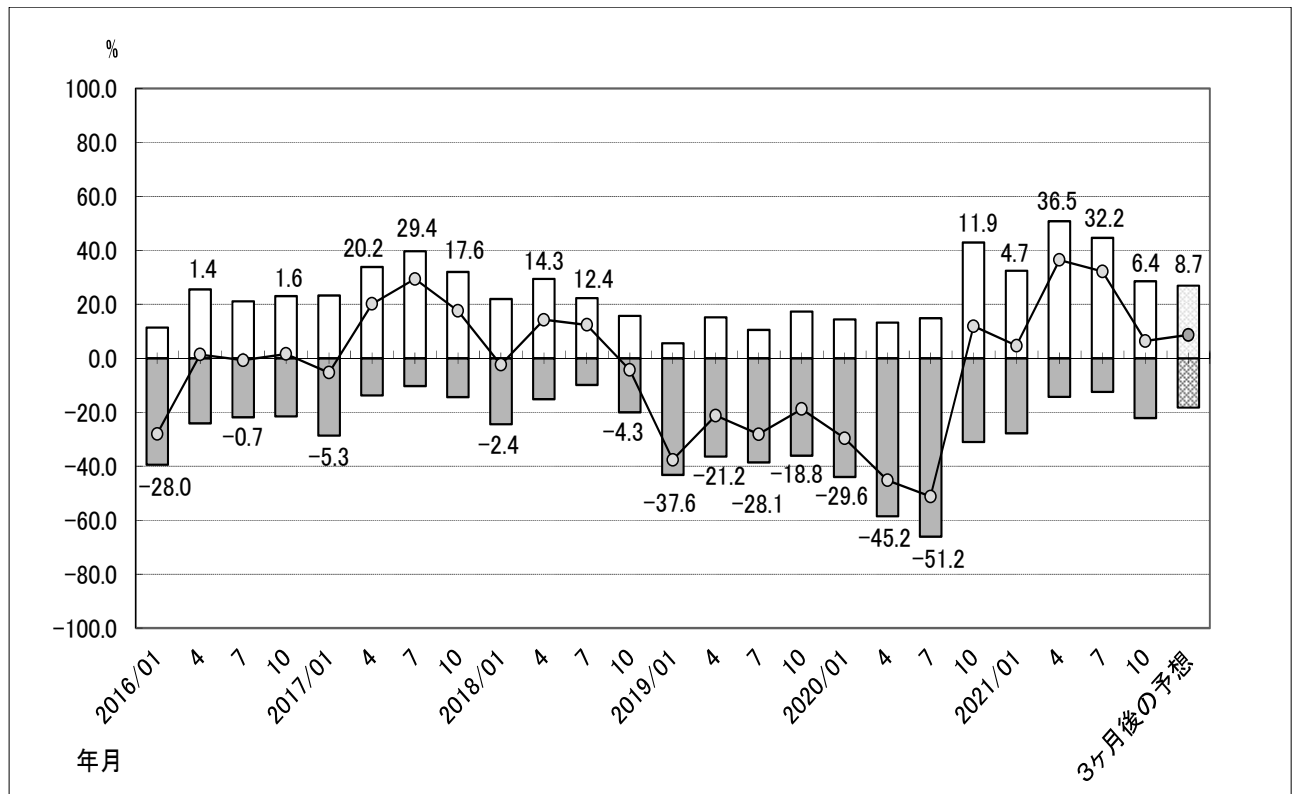
表－3

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業	増加	不変	減少	DI	回答 企業	増加	不変	減少	DI	回答 企業	増加	不変	減少	DI
製造業		126	28.6	49.2	22.2	6.4	126	58.7	23.8	17.5	41.2	126	27.0	54.8	18.3	8.7
規模	1～29人	61	26.2	54.1	19.7	6.5	61	54.1	27.9	18.0	36.1	61	27.9	59.0	13.1	14.8
	30～99人	47	29.8	42.6	27.7	2.1	47	61.7	21.3	17.0	44.7	47	23.4	51.1	25.5	-2.1
	100人～	18	33.3	50.0	16.7	16.6	18	66.7	16.7	16.7	50.0	18	33.3	50.0	16.7	16.6
中分類	金属製品 製造業	33	21.2	57.6	21.2	0.0	33	57.6	27.3	15.2	42.4	33	21.2	69.7	9.1	12.1
	一般機械 器具製造業	27	33.3	40.7	25.9	7.4	27	66.7	14.8	18.5	48.2	27	22.2	51.9	25.9	-3.7
	電気機械 器具製造業	25	40.0	56.0	4.0	36.0	25	88.0	8.0	4.0	84.0	25	32.0	60.0	8.0	24.0
	輸送用機械 器具製造業	13	0.0	46.2	53.8	-53.8	13	23.1	30.8	46.2	-23.1	13	53.8	38.5	7.7	46.1
	精密機械 器具製造業	12	33.3	50.0	16.7	16.6	12	66.7	8.3	25.0	41.7	12	25.0	25.0	50.0	-25.0

製造業の受注状況DIの推移

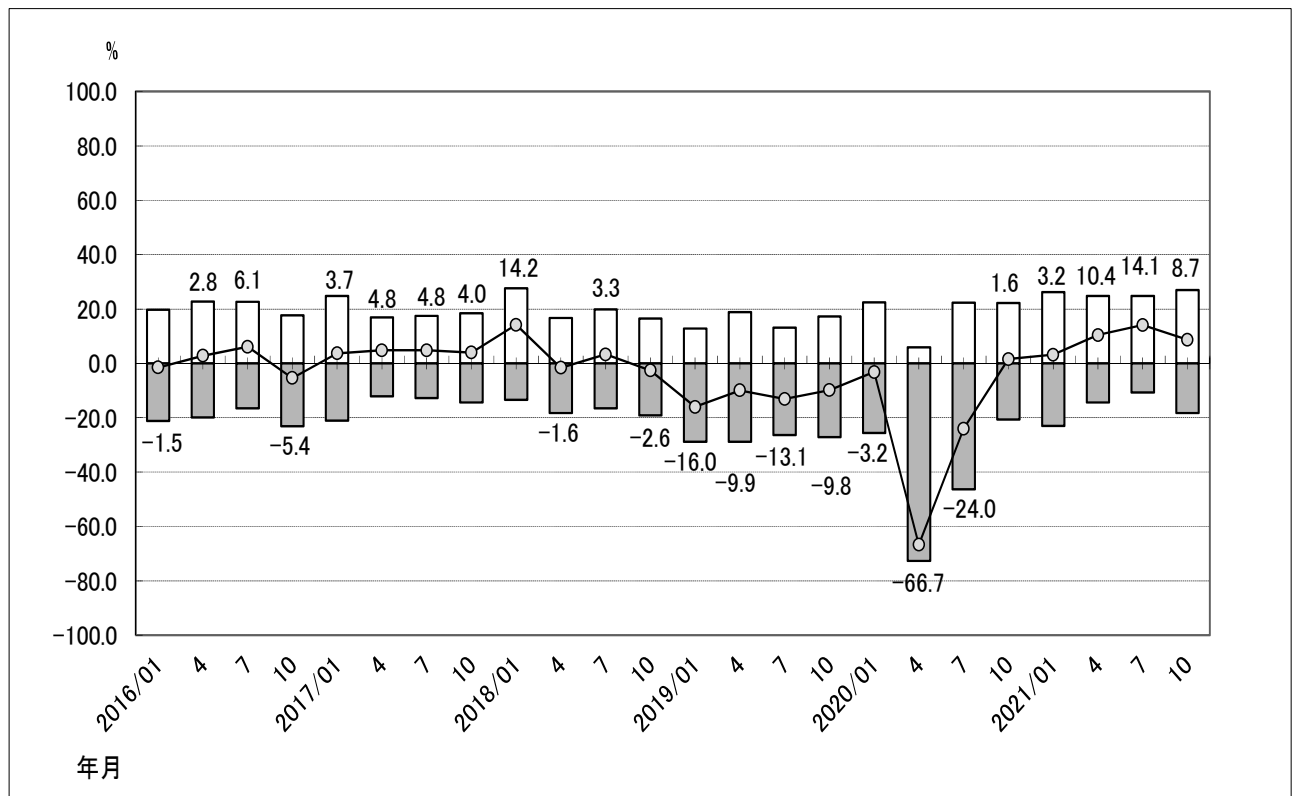
●製造業全社:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



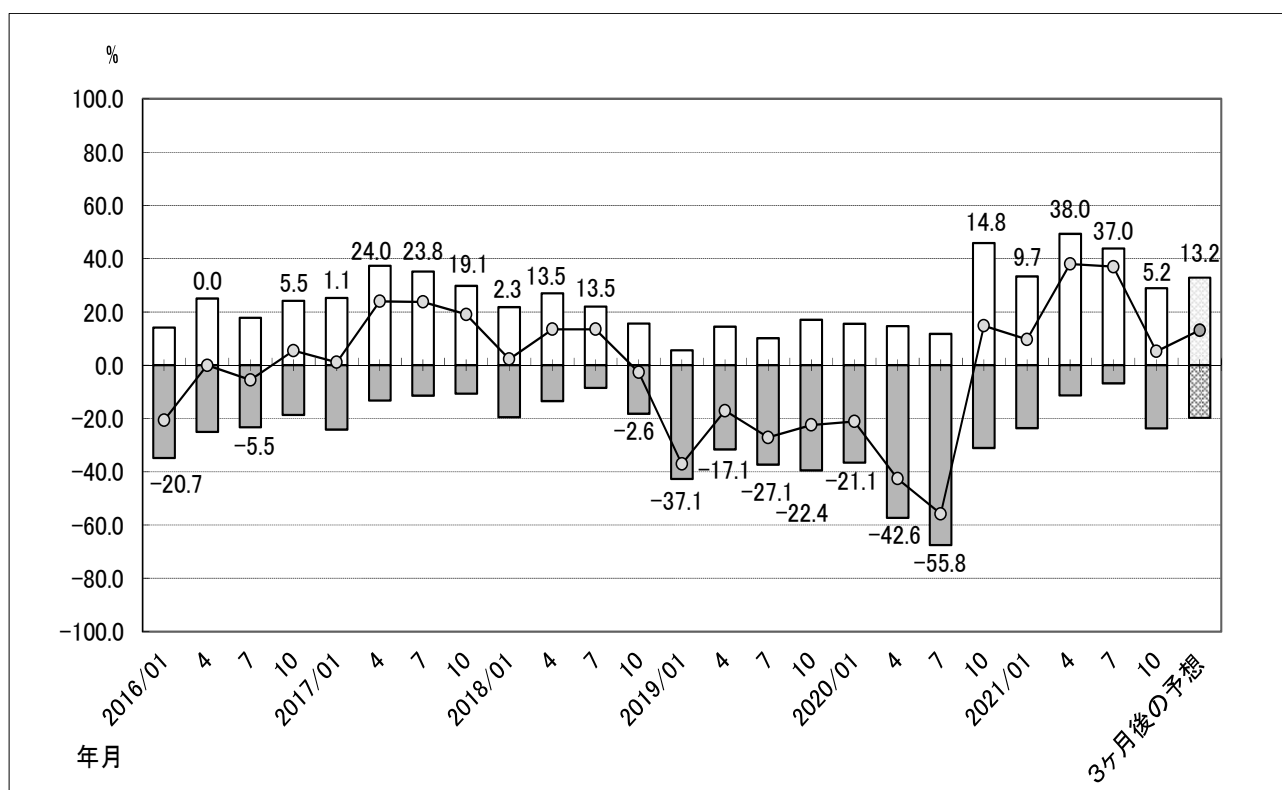
●製造業全社:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



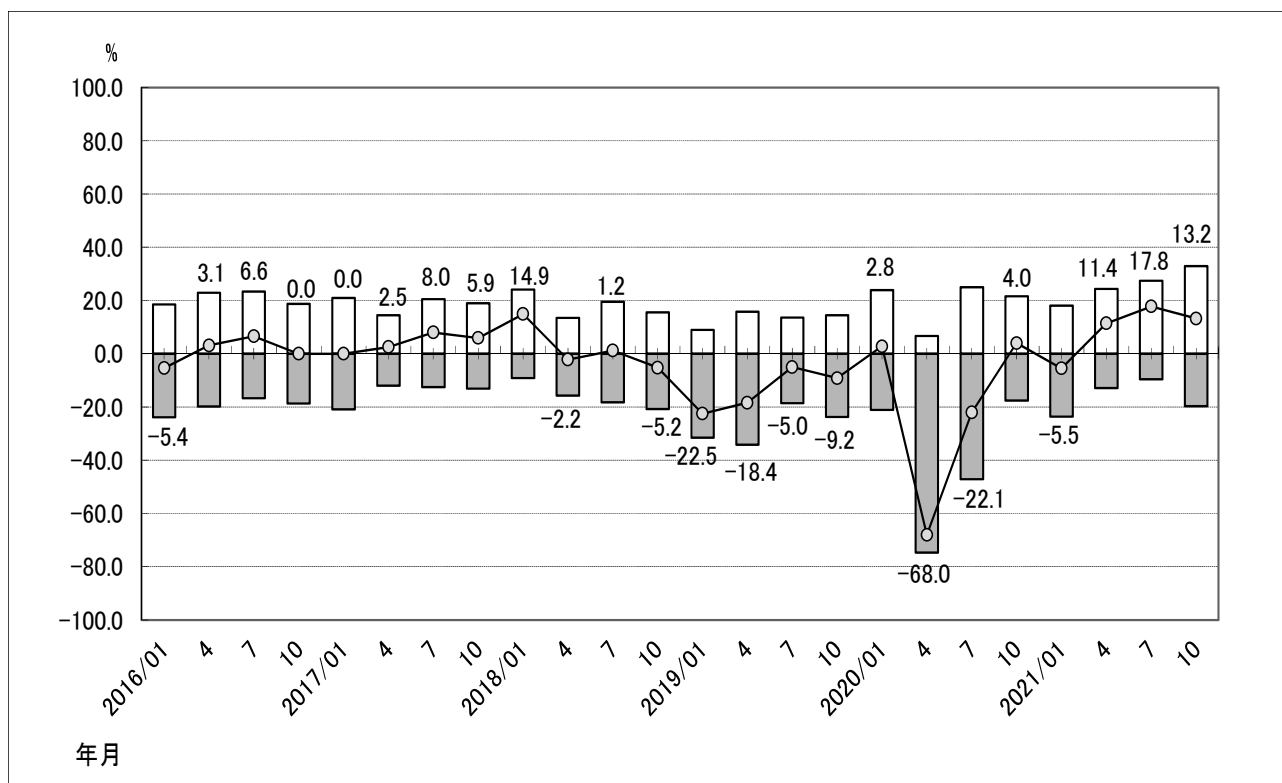
●製造業 主要5業種:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

① 商業

新型コロナウイルス感染が落ち着き、小売店や飲食店などでは来店客が増加しつつある。忘年会予約や問い合わせも徐々に出ている。ただ、各種食材やガソリン、灯油の価格が高騰し、家計への影響が懸念される。また、カーボンニュートラルの潮流で、太陽光発電に再燃の兆しがあり、蓄電池とセットでの商談が出始めている。

- 大型店 感染が小康状態となり、来店客数が増加している。ギフトの時期だが、天候不順で旬のリンゴが少なく、売り切れ状態となる店舗があった。
- 自動車 諏訪地方の10月の車庫証明件数(軽自動車除く)は731件で、前年同月比で226件減少(△23.6%)した。各メーカーの減産の影響が出ている。
- 書店 昨年大ヒットしたコミック「鬼滅の刃」の反動減が出ている。
- ガソリン 県内のレギュラーの平均店頭価格は、13年1ヵ月ぶりの175.1円に達した。
- 家電 急激な気温の低下でエアコン、ヒーター、ストーブ、ホットカーペットなど暖房機器の売行きが好調だった。大型の白物家電の動きは鈍くなっている。
- 飲食店 わずかながら宴会需要が出ている。鮮魚類が天候不順や高潮の影響で高騰し、油は4月に比べ1.5倍の価格となり、天ぷらなどは利益が出にくい状況となっている。

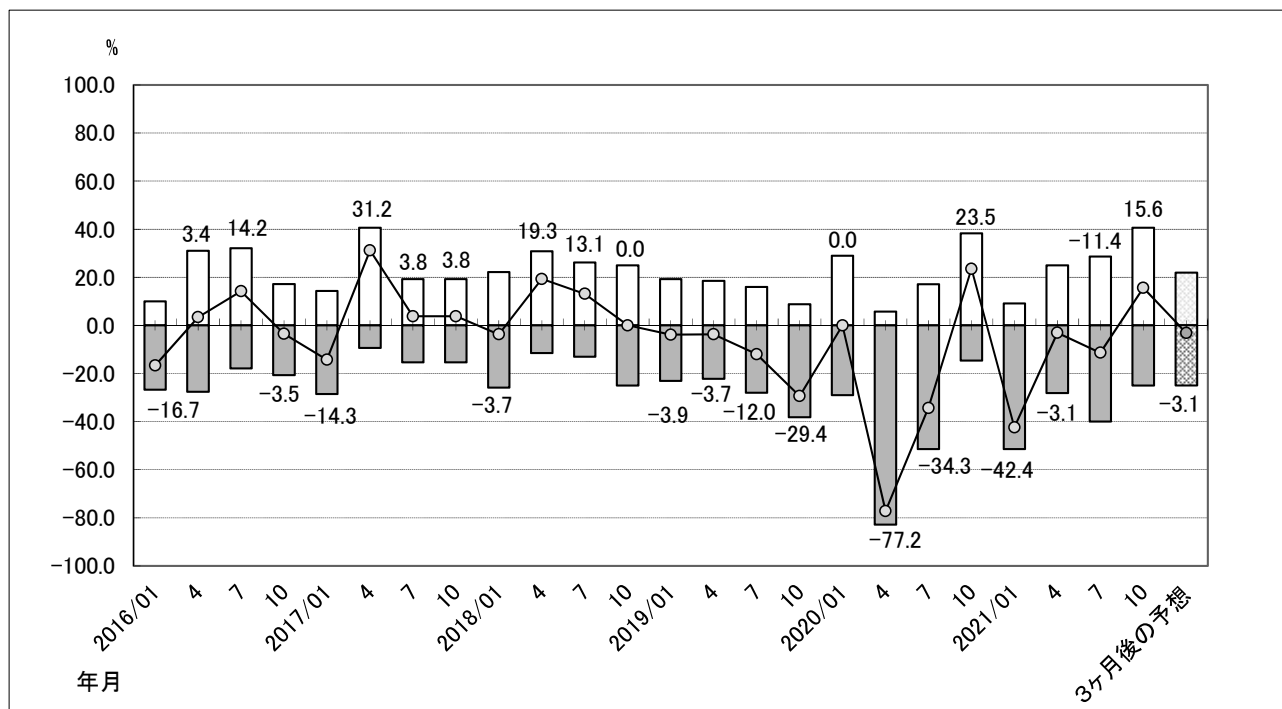
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業 況	32	40.6	34.4	25.0	15.6	32	28.1	34.4	37.5	-9.4	32	21.9	53.1	25.0	-3.1
客単価	32	21.9	65.6	12.5	9.4	32	28.1	53.1	18.8	9.3	32	25.0	59.4	15.6	9.4
来店客数	32	43.8	34.4	21.9	21.9	32	34.4	31.3	34.4	0.0	32	31.3	46.9	21.9	9.4

●商業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



② 観光・サービス業

10月は首都圏の緊急事態宣言解除や諏訪圏域の警戒レベル引き下げで、総体的に諏訪地方の宿泊人数が増加した。県内外からの修学旅行、県民割や市民割など各種割引の利用客が増加した。サービスエリアも急回復で、昨年のGoToトラベル時を上回る売上げだった場所もある。ただ、ホテル・旅館などでは、ガソリン価格の高騰や電気料金値上げ、食用油など食品関係の値上げが収益圧迫要因となっている。

- 上諏訪温泉 10月から観光客の増加が顕著になった。「すわ泊お宿割」第3弾と「県民割スペシャル」のダブル割引や諏訪湖オータム花火効果で、県内在住者や関東圏からの来訪が急増した。年末年始の大規模な忘新年会の予約は、まだ低調な状態にとどまっている。
- 下諏訪温泉 県内小中学生を中心とした修学旅行などで、宿泊客数が大幅に増加した。
- 蓼科・白樺湖 感染の沈静化とともに、観光地への入り込みが増え、蓼科方面は日帰り客を含め、例年の8～9割の入り込みとなった。長野、山梨、静岡県民の一部施設利用を無料にした富士見町の施設は、全線開通した中部横断道を利用した県外客らでにぎわった。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた10月の参拝者数は約8万2千人で、前年同月比約16千人増加(25.1%)した。

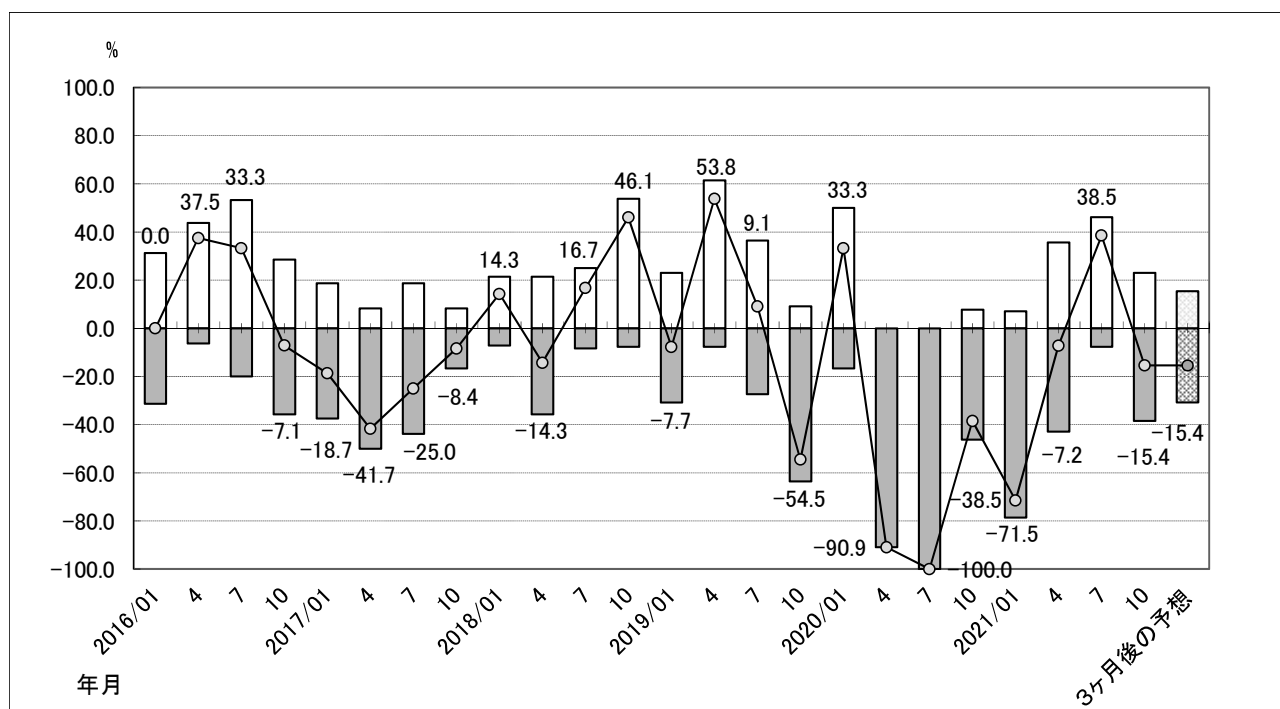
業況、売上、宿泊客

表-5

	3カ月前と比べて					前年同期と比べて					3カ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	13	69.2	15.4	15.4	53.8	13	23.1	38.5	38.5	-15.4	13	15.4	53.8	30.8	-15.4
客単価	13	30.8	61.5	7.7	23.1	13	23.1	61.5	15.4	7.7	13	30.8	53.8	15.4	15.4
宿泊客数	13	61.5	23.1	15.4	46.1	13	30.8	30.8	38.5	-7.7	13	23.1	46.2	30.8	-7.7

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



3.建設業

受注状況DIは「3ヵ月前」と比べ、前回の△15.8から13.0、「前年同期比」は前回の△36.8から△13.1と改善した。収益性DIも「3ヵ月前」と比べ、前回の△26.3から△17.4と水面下ながら改善したが、材料不足とする企業は前回の27.8%から43.5%へ増えている。「3ヵ月後」も47.8%の企業が不足するとみている。諏訪地方の2021年4月～9月の新設住宅着工戸数は、持家403戸、貸家31戸、分譲31戸の合計465戸となり、前年同期比で113戸、19.5%減少した。

●建築工事

諏訪地方の2021年9月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市11戸、諏訪市4戸、茅野市26戸、諏訪郡15戸の合計56戸だった。長野県全体の9月の新設住宅着工戸数は1,107戸で、前年同月比20.7%増加した。持ち家は10ヵ月連続の増加となった。

●公共工事

2021年10月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、12件663百万円だった。また、市町村からの受注工事は、建築工事2件50百万円、土木・水道工事66件276百万円、その他工事19件79百万円だった。8月～9月の大雨による被害の復旧工事が多くなっている。

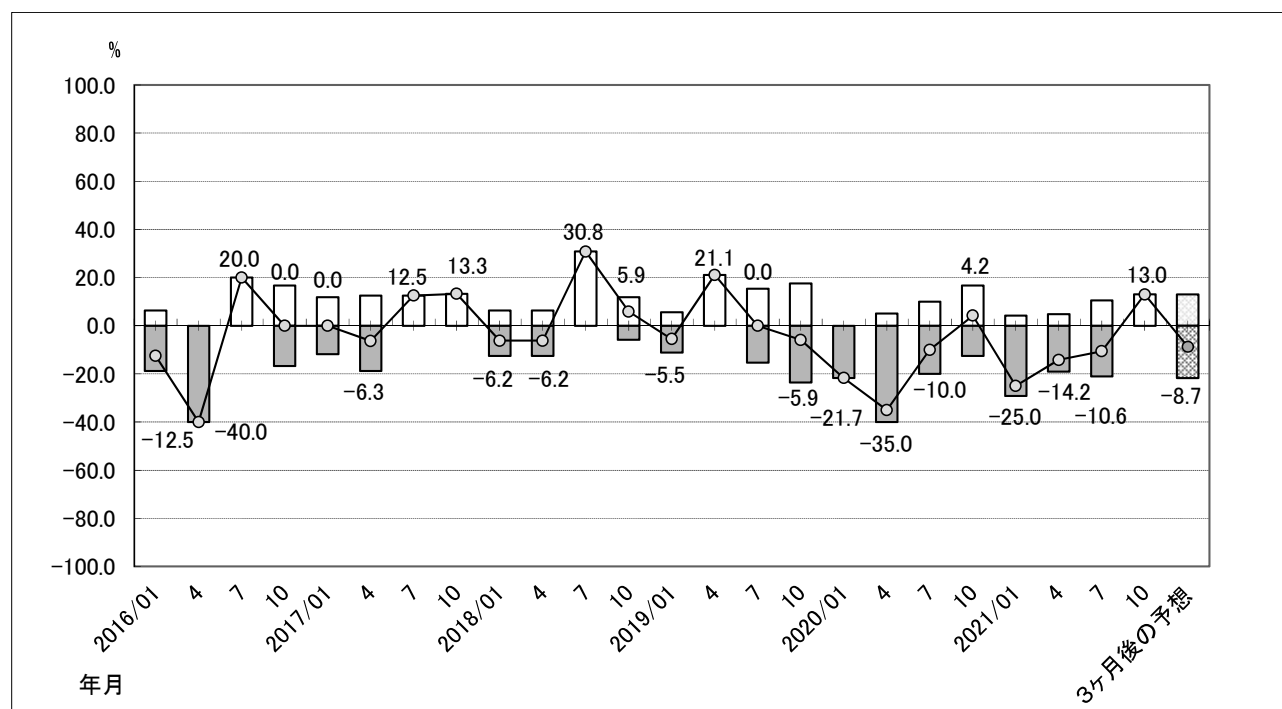
業況、受注状況、外注発注量

表－6

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業 況	23	13.0	87.0	0.0	13.0	23	13.0	56.5	30.4	-17.4	23	13.0	65.2	21.7	-8.7
受注状況	23	30.4	52.2	17.4	13.0	23	21.7	43.5	34.8	-13.1	23	30.4	34.8	34.8	-4.4
外注発注量	23	30.4	52.2	17.4	13.0	23	17.4	60.9	21.7	-4.3	23	17.4	56.5	26.1	-8.7

●建設業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー10

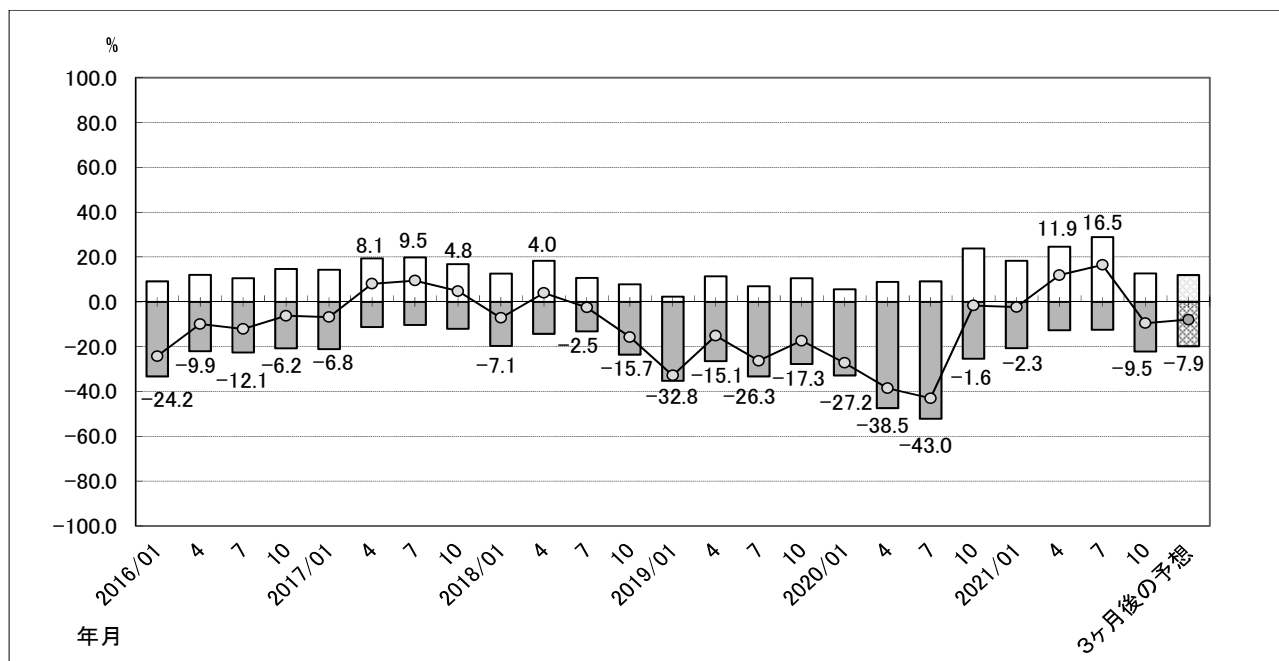


4.収益性状況

回答全社の「3ヵ月前」と比べた収益性は「好転」企業 15.5%、「悪化」企業 21.1%で、同DIは△5.6 と前回調査時の 4.8 から悪化した。製造業は△9.5 で前回の 16.5 から悪化した。非製造業は 1.5 で前回の△16.5 から改善した。回答全社の「前年同期比」は 8.3 で、前回の 17.5 から悪化した。「3ヵ月後」の予想DIは、製造業が△7.9 で前回の 4.2 から悪化し、非製造業も△8.8 で前回の△7.5 から悪化した。回答全社では△8.2 となり、前回の 0.0 から悪化した。

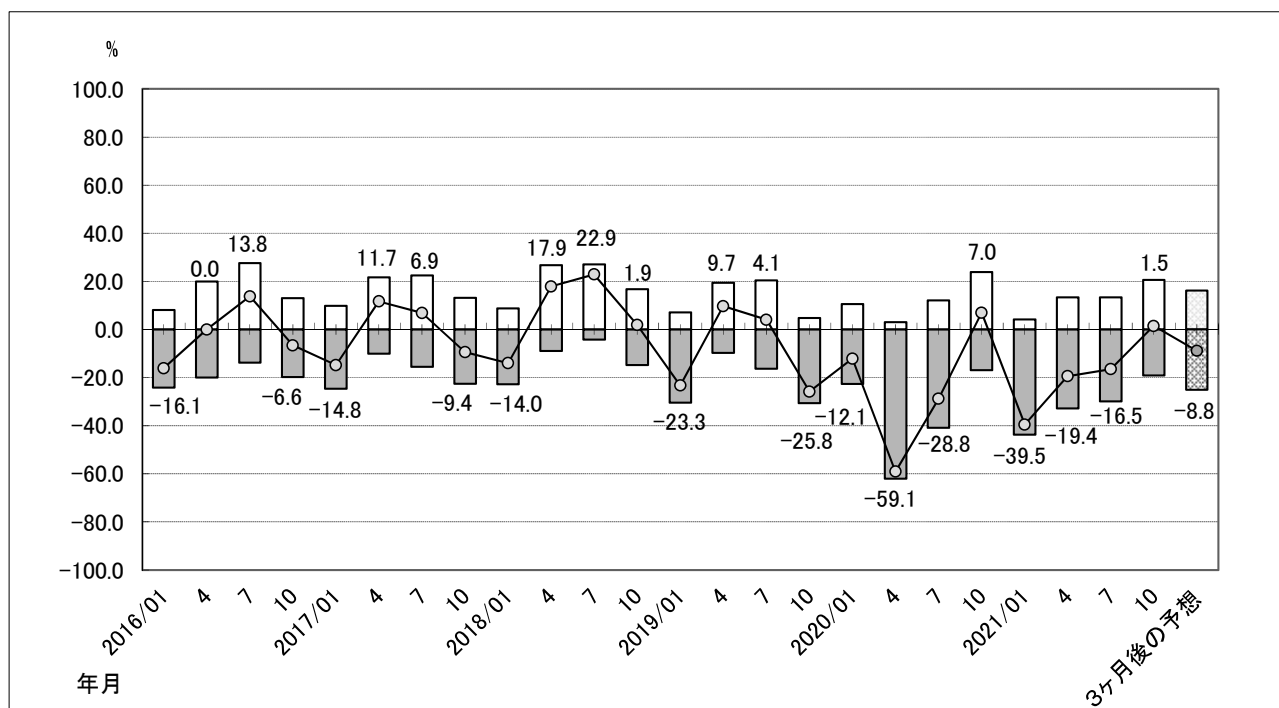
●製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題(3 つまでの複数回答)

経営上の課題として①製造業は労働力確保と売上減少②商業は売上減少と労働力確保③建設業は労働力確保と売上減少④観光・サービス業は売上減少と労働力確保となっている。

経営上の課題	合 計	製 造 業	商 業	建 設 業	観光・サービス業
売 上 減 少	83	43	21	9	10
単 価 引 下 げ	23	15	3	2	3
競 争 激 化	33	18	8	7	0
資 金 繰 り	35	23	5	2	5
人 件 費	29	16	5	4	4
労 働 力 確 保	105	63	19	16	7

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実 数	前年同期比
有効求人倍率【9月】	ハローワーク諏訪	1.37 倍	0.35 ポイント
手形交換高 【10月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	2,326 枚	△283 枚
	金 額	3,247 百万円	△527 百万円
	うち不渡り 発生状況	枚 数	3 枚
		金 額	988 千円
車庫証明取扱件数【10月】(諏訪地方合計)		731 件	△23.6 %
新設住宅着工戸数【2021年4月～9月】(諏訪管内)		465 戸	△19.5 %

7.調査概要

DI調査: 業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 2021 年 10 月。
- ② 調査内容 「2021 年 10 月時点」の実績と、「3 ヶ月前」と「前年同期」の業績比較および「3 ヶ月後」の予想。
- ③ 調査方法 DI調査および約 130 社のヒアリング調査。
- ④ 回答企業数 194 企業。
- ⑤ 回答率 77.6%

DI調査状況

	製造業	商 業	建 設 業	観光・サービス業	合 計
依 頼 数	160	40	30	20	250
回 答 数	126	32	23	13	194

さえない日本経済

7-9月の国内総生産が発表になりました。年率で全四半期に比べて3.0%のマイナスと、さえない内容です。表には、今年に入ってから日本、米国、ユーロ圏、中国の成長率が出ています。(中国だけは前年同期比です。他は前四半期比の年率換算です。)

米国と中国は、直近の7-9月期では成長率が鈍化しているもののプラス成長を続け、今年に入って景気回復が進みました。ユーロ圏(通貨ユーロを使っている19か国)は、年初はロックダウンなどもありマイナス成長でしたが、ここにきての成長率は目を見張るものがあります。

一方、日本は、今年に入ってから1-3月期はマイナスで、4-6月期も1.9%(2次速報値)とわずかな成長、そして7-9月期は先ほども述べたような-3%とさえない展開となっています。これは、これまでこの連載で述べたように、欧米諸国に比べてワクチン接種が遅れたことが最大の原因です。ここにきてワクチン接種率が欧米並みの水準に向上し、一部の国々を抜いていますが、周回遅れの経済はいまだにさえないのです。



2021年	日本	米国	ユーロ圏	中国
1-3月	-4.2	6.3	-1.2	18.3
4-6月	1.9	6.7	8.7	7.9
7-9月	-3.0	2.0	9.1	4.9
	内閣府	商務省	ユーロスタット	国家統計局

単位%

経済拡大に舵を切る時期

皆さんは、米国や欧州のこのところの1日のコロナウイルスの感染者数をご存じでしょうか。答えは人口が約3倍の米国で10万人前後、人口が日本より少ない英国では約3万人程度、ドイツでは4万人を超える日も出ています。一方、日本では数百人という日が続いています。

日本でも10月以降、緊急事態宣言が解除され、飲食店やイベントにも人が戻りつつありますが、これらの業種や旅行業などの非製造業では長い間苦境が続いていました。旅行業ではコロナの影響がなかった2年前に比べて1割程度の売上が長く続きました。経営コンサルタントとして企業の現場を見ていますが、本当に大変な状況が続いた会社も少なくないのです。

このところ、コロナの感染者数が大きく減少していますが、私はいまのうちに、政府は景気回復への思い切ったかじ取りを行って欲しいと思っています。つまり、感染者数抑制もとても大切なことですが、重症患者数や病床使用率を基準として、経済のあり方を考えて欲しいと思うからです。飲食やイベント、旅行に対する規制を、重症者数などが増えない限りは、極力解除して欲しいのです。

第6波での経済活動基準を

そして、あって欲しくないことですが、第6波の予想を立てている研究者も少なくありません。そうなった時には、これまでのような感染者数を大きな基準とする対策ではなく、米国や英国のように、重篤化しないなら感染者数をそれほど気にすることなく、経済活動が続けるように方針を転換することを明確にして欲しいと思っています。

というのは、先ほども述べたように、回復力も弱く、またK字回復が鮮明です。「K」の字の右側のように、製造業はそこそ良いのですが、非製造業は低迷しているという状況です。製造業は自動車産業では半導体不足などで生産が落ちてはいますが、全般的には回復基調なのに対し、非製造業の回復速度はとても遅い状況です。

そして、ここまでかなりの回復を見せていた米国経済もそろそろピークアウトしたという見方が広がっています。金融緩和も11月以降その規模を縮小(テーパリング)していくことが決まりました。来年半ば以降には金利も上昇するでしょう。

中国も恒大集団の債務危機問題があり、また、皆で平等に豊かになるという「共同富裕」のスローガンもあって、一部企業や富裕層への締め付けがきつくなり、景気への足かせとなっています。

米中の景気減速は、これから景気回復という日本には大きな影響を与えることは言うまでもありません。

さらには、前回にも説明したように、インフレの足音が聞こえます。下手をすると不況下のインフレの「スタグフレーション」の危険性もあります。

感染拡大は避けたいですが、ウイズコロナの経済政策を岸田新政権には望みたいものです。

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は
諏訪信用金庫 総務部へ
電話 0266-23-4567